

科 目		必・選	担 当 教 員	学年・学科				単位数	授 業 形 態				
政治・経済 Politics & Economic		必	小田 憲	3 年生 電気情報工学科				2	通年 週 2 時間				
授業概要		政治・経済の用語になじみ、基本的仕組みを理解しながら、現実の政治経済の動きを理解できるようになることを目指す。											
到達目標		情報・資料の読解能力を身につけ、自らの生き方と連動させた認識を高める。											
評価方法		定期試験（ 8 0 % ）、発表・提出物（ 2 0 % ）											
教科書等		「新政治・経済」（第一学習社）、配布プリント資料。											
内 容												学習・教育目標	
第 1 週	政治・経済どのように学ぶか。										A		
第 2 週	国内政治の動向を見ながら基礎的な政治用語になじむ。										A		
第 3 週	国際政治の政治動向から国家、主権、政治体制の基礎用語になじむ。										A		
第 4 週	日本国憲法を基点にして、わが国の政治構造の概要を捉える。										A		
第 5 週	平和主義（憲法三原則の一つ）をめぐる現状と課題を考える。										A		
第 6 週	基本的人権（憲法三原則の一つ）をめぐる現状と課題を考える。										A		
第 7 週	国民主権（憲法三原則の一つ）をめぐる現状と課題を考える。										A		
第 8 週	三権分立と立法権。国会のあり方をめぐる現状と課題を考える。										A		
第 9 週	三権分立と行政権。官公庁のあり方をめぐる現状と課題を考える。										A		
第 1 0 週	三権分立と司法権。裁判所と裁判をめぐる現状と課題を考える。										A		
第 1 1 週	憲法や六法を中心に法律体系の概要をつかむ。										A		
第 1 2 週	近現代史と戦争・戦争体験を振り返り、平和の意味を考える。										A		
第 1 3 週	国際社会への日本の平和貢献を考える。										A		
第 1 4 週	国際紛争と国連の役割を考える。										A		
第 1 5 週	主権者（若者）として政治にどうかかわるか考える。										A		
第 1 6 週	経済と経済主体（家計・財政・企業）のありかたを総合的に捉える。										A		
第 1 7 週	給料明細書を読み、財政や企業との関係という視点から現状を考える。										A		
第 1 8 週	個人の預金や国債購入・投資などと経済・財政との関係を考える。										A		
第 1 9 週	税と財政赤字の現状や課題を考える。										A		
第 2 0 週	市場経済の原則について学ぶ。										A		
第 2 1 週	需給関係とその変動について学ぶ。										A		
第 2 2 週	市場経済の景気変動を学ぶ。景気変動はなぜ起きるか。なぜ不景気が続くのか。										A		
第 2 3 週	景気変動への政府・日銀の景気対策について学ぶ。										A		
第 2 4 週	起業するパターンを知る。										A		
第 2 5 週	直接金融と間接金融。企業活動における資金の集め方、使い方を見る。										A		
第 2 6 週	損益計算書の読解から企業のありかたを見る。										A		
第 2 7 週	貸借対照表の読解から企業のありかたを見る。										A		
第 2 8 週	付加価値や G D P などの用語から価値・価格の原理を学ぶ。										A		
第 2 9 週	株の仕組みを知り、相場変動の概要を知る。										A		
第 3 0 週	為替レート変動の意味を知り、貿易のありかた国際収支などについて概要を知る。										A		
（特記事項） 大きな政治・経済事件があった場合 など、予定を変更することがある。			JABEE との関連										
			JABEE	a	b	c	d1	d2a)d)	d2b)c)	e	f	g	h
			本校の学習 ・教育目標	A	A	C	C	C	B	B	D	C	B

1. 合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。

2. 定期試験について、特に記載の無いものは、評価配分を均等とします。（【例】年4回定期試験を実施した場合の各定期試験の評価配分は、特に記載の無いものは、25%ずつになります。）

政治・経済ガイダンス

(政治分野)

- 第 1 週 政治経済分野でも本質と現象、普遍と特殊などの社会科学で捉える訓練をする。
- 第 2 週 マスコミが伝える政治動向から色々な用語の意味を考えたり発表したりする。
- 第 3 週 マスコミが伝える国際政治動向から国家や国家体制、政治体制の違いを知る。
- 第 4 週 憲法全文や諸条項から日本の国家体制、政治体制を確認する。
- 第 5 週 憲法 9 条、靖国問題などを中心にして平和主義の実情を考える。
- 第 6 週 自由権、社会権の意味を考え、新しい人権にも目をむける。
- 第 7 週 一口に主権在民というが、間接民主制と直接民主制との関係ではどうか。
- 第 8 週 議員の選び方、国会運営の実情、国民のチェック体制などに目をむける。
- 第 9 週 議院内閣制のあり方、行政機関のあり方、国家公務員の任務に関心を払う。
- 第 10 週 裁判制度の問題、裁判員制度、法曹界の問題も考える。
- 第 11 週 わが国の法体系を知り、特に刑法、刑事訴訟法の概要を知る。
- 第 12 週 日本近代史の中の 4 回の戦争とその教訓は何か考える。
- 第 13 週 世界の核問題とわが国の姿勢、果たすべき役割とは何か考える。
- 第 14 週 世界に展開されている紛争と国連の任務、国連の問題点を知る。
- 第 15 週 政治的無関心層、無党派層などと若者の問題を自らのこととして考える。

(経済分野)

- 第 16 週 経済は家計、財政、企業活動の有機的結合の総体であることを捉える。
- 第 17 週 身近な給料明細を例にして有機的結合の状況を確認する。
- 第 18 週 個人の預金や国債、投資の具体例から有機的結合の状況を確認する。
- 第 19 週 財政の役割を知り、歳入、歳出の実態、問題点を見る。
- 第 20 週 資本主義経済における市場経済の原理的な特徴を学ぶ。
- 第 21 週 市場経済の根幹ともいえる需給関係の原理を考える。
- 第 22 週 需給関係が生み出す景気変動を知り、生産活動とのかかわりを学ぶ。
- 第 23 週 景気変動に対する財政や日本銀行の役割についても知っておく。
- 第 24 週 起業するパターンからベンチャー企業の姿を眺める。
- 第 25 週 企業が成長するための資本の集め方、使い方を具体例で学ぶ。
- 第 26 週 企業の成績表ともいえる損益計算書になじむ。
- 第 27 週 企業の健康診断ともいえる貸借対照表になじむ。
- 第 28 週 経済原論としての価値、価格、付加価値、GDPなどの概要も知る。
- 第 29 週 株式や株式相場も情報を読解できるようになる。
- 第 30 週 国際収支、貿易収支の実情と為替相場についても基本を知っておく。